

# 東京 肝臓のひろば

令和5年(2023年)8月号 第255号

特定非営利活動法人 東京肝臓友の会

〒161-0033 東京都新宿区下落合4-27-5-201  
電話 (03) 5982-2150 振替 00120-6-40564  
FAX (03) 5982-2151 口座名 東京肝臓友の会  
<http://www.tokankai.com>



横浜海岸教会 ～神奈川県横浜市～

切り絵・佐藤廣士さん

# World Hepatitis Alliance 「Hep Can't Wait Asia workshop」に参加!

## ～肝炎は待ったなし アジアワークショップ～

7月11日、12日に香港で開催された、World Hepatitis Alliance(世界肝炎同盟、以下WHA)主催の「肝炎は待ったなし アジアワークショップ」に参加しました。WHAは世界の肝炎の患者団体で、日肝協(東京肝臓友の会の上部団体)も加盟しています。2007年にチャールズ・ゴア氏によってロンドンで設立され、2010年に7月28日「世界肝炎デー」の制定をWHOに提唱、日本でも肝炎デーが制定されました。現在、全世界の患者団体を中心に324の団体が加盟しており、「2030年までに肝炎ウイルスを排除する」という大きな目標に向かって活動を続けています。

今回のアジアワークショップには、アジア各国から15団体が参加しHBVワクチン接種、検査、治療へのアクセスの改善、B型肝炎と肝臓がんについて、偏見や差別などのスティグマ、HIV関連サービスとの統合などについて話し合われました。

私は、現在2つの研究班で取り組んでいる「ピアサポート外来」と「肝炎患者に対する偏見差別の解消」について「About Peer Support for Hepatitis Outpatient (ピアサポート外来について)」、「Pain of HBV Patients In Japan (B型肝炎患者の苦悩)」という演題で発表しました。ピアサポート外来については、日本の肝炎対策の一つである「肝炎医療コーディネーター制度」についても紹介し、素晴らしい試みで自国においても参考にしたいとの意見が上がりました。また、偏見差別については、どの国でもいまだに苦しむ患者が多く、患者に対するケアを支援していくとのWHA見解がまとめられました。肝炎デーイベント前の多忙な時期ではありましたが、久々の国際会議に参加し、アジア、日本の状況や今後やるべきことを確認できてほんとうに実のある2日間でした。

米澤 敦子



大人のラヂオ

ラジオセミナー

収録:2023年6月2日(金)

放送:2023年6月9日(金)



## B型肝炎の最新治療情報となんでも相談会

講師

八橋 弘先生 (国立長崎医療センター病院長)

ポッドキャストでいつでも  
聴くことができます!

B型肝炎の診断については、HBs抗原、B型肝炎ウイルスがつくる表面たんぱくが血液中に6ヶ月以上検出される人を「HBsキャリア」と呼んでいます。B型慢性肝炎という病名も、これも広い意味

### ◆B型肝炎の診断と疫学

いたします(図1)。

司会(米澤敦子) 今回はラジオNIKKKEIのスタジオで行われたセミナーの模様をお伝えいたします。講師の先生は、この番組でもおなじみの国立長崎医療センター病院長の八橋弘先生です。

八橋弘先生 みなさん、こんに

ちは。今日はミニレクチャーという

初めての試みです。主にB型肝炎の

治療について、最新の情報も含めて

ご紹介いたします。まずB型肝炎の

診断という基礎的なことからお話し

もくじ | Index |

東京肝臓のひろば 255

- 2** World Hepatitis Alliance  
「Hep Can't Wait Asia workshop」に参加!
- 3** 「大人のラヂオ」ラジオセミナー (2023年6月放送)  
「B型肝炎の最新治療情報となんでも相談会」  
講師 長崎医療センター病院長 八橋弘先生
- 20** (2022年2月放送「大人のラヂオ」から)  
「患者会の声その2 ～全国心臓病の子どもを守る会～」

- 32** 「ジコメン・メディカル」  
帝京大学医学部附属病院 田中篤先生
- 33** 東京肝臓友の会 活動日誌 (6月、7月)
- 34** 情報BOX 同病者による面談相談ごあんない
- 36** B肝部会交流会のお知らせ  
相談会のご案内

ではキャリアの範疇に属します。使い分けとして、HBs抗原が持続陽性で、ALT値異常がある人をB型慢性肝炎、HBs抗原が血液中に持続陽性でALT値が持続正常の人をHBVキャリアー、としています。

HBVキャリアーの方は日本にどのくらいいるかというと、40年ほど前には300万人、400万人いと言われていたのですが、現在では100万人にまで低下しています。多くは40歳以上の方です。40歳以下の方では、B型肝炎の母子感染予防法の普及で劇的に減っています。B型肝炎肝炎の診断の方法は、HBs抗原が血液中に持続的に検出されることが基本ですから、HBs抗原が消えてしまえばB型肝炎は治ったという判断になります。ですので、B型肝炎の治療の最終目標は、HBs抗原の消失になります。

### ◆HBs抗原の消失

HBs抗原の消失は自然経過でも見られるのですが、一人ひとりの患者さんを見てみると、それほど簡単に起こる現象ではありません。これは私が診ている患者さんで、30歳のときに初めて受診されたのですが、激しい肝炎を示していました(図2)。

その当時、インターフェロンで2ヶ月間の治療したあと、肝炎は落ち着きました。ただHBs抗原がずっと陽性で、30歳から治療を始めて34歳くらいで肝炎は落ち着きました。それから半年ごとに経過を診て、

HBs抗原が消えたのは47歳のときでした。初めて病院に来たのが30歳、肝炎は数年続いて落ち着き、HBs抗原が消えたのが47歳のことで、HBs抗原の消失まで18年かかりました。外来で診ていると、HBs抗原の量は半年ごとに

少しずつ低下していました。B型肝炎のキャリアの方は、自然経過でHBs抗原が、どの程度消えるのかということについて、長崎県

に経過を診て、

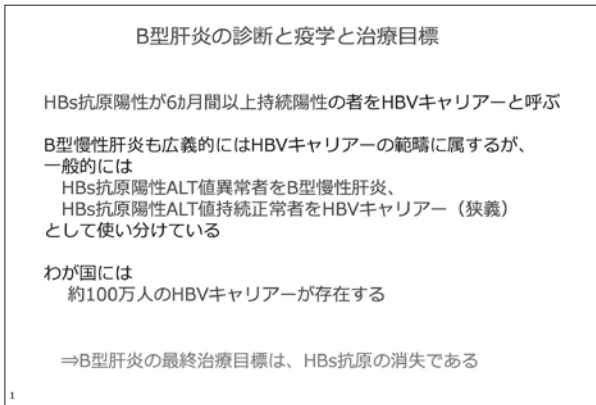


図1

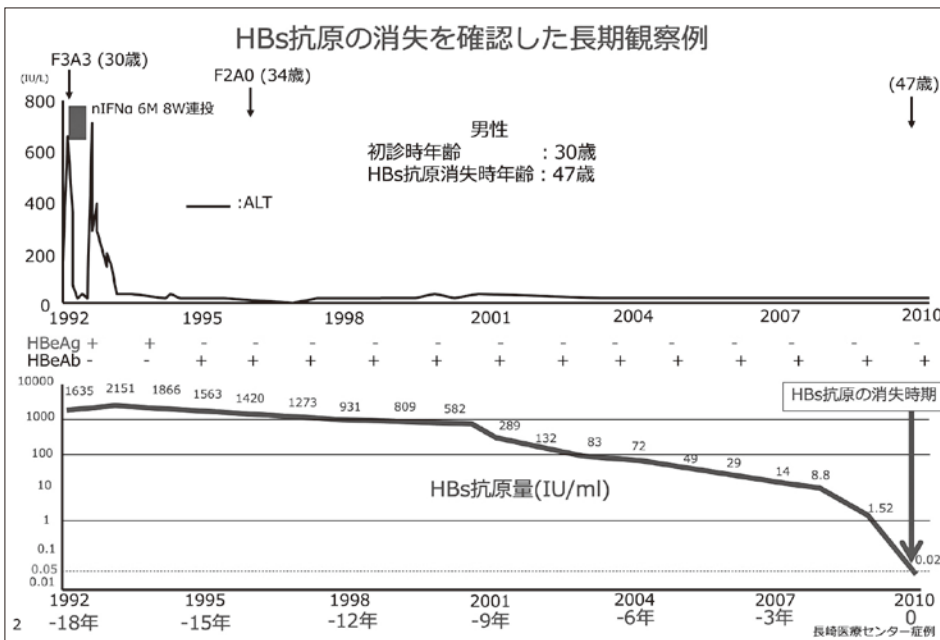


図2

H B s 抗原の消失を確認できた  
50人の方の5年前、10年前、20年  
前のH B s 抗原量の中央値を調べ  
ました。H B s 抗原が消失した50

一人ひとりの患者さんが、何年後  
にH B s 抗原が消えるのかというこ  
とについて計算してみました(図4)。

の五島列島の住民の方を調べたデー  
タがあります(図3)。  
H B V キャリアーのなかで、H B  
e 抗原陽性の方、要するにウイル  
スの多い方は、30年間でH B s 抗原  
は30%消えていきました。年間で計  
算すると1%の消失の頻度です。一  
方H B V キャリアーのなかで、H B  
e 抗原が陰性のウイルス量が低下し  
ている人は、30年間で60%消えた  
ので、年率2%の消失の頻度になり  
ます。H B V キャリアーの方は年率  
1~2%、100人いらっしゃったら、  
1年ごとに1人か2人、H B s 抗原  
が消えていくことになります。こ  
れが自然経過の頻度と言われてい  
ます。

人の20年前のH B s 抗原量は1万  
(IU/ml)、10年前は1000 (IU/  
ml)、5年前は100 (IU/ml) という  
値です。ご自身のH B s 抗原量が  
1万 (IU/ml) だと20年、1000  
(IU/ml) だと10年、100 (IU/ml)  
だと5年で消えるのかな、と理解し  
ていただいてよろしいと思います。

### 上五島住民を対象とした観察研究 自然経過でのHBs抗原の累積消失率 (N=862)

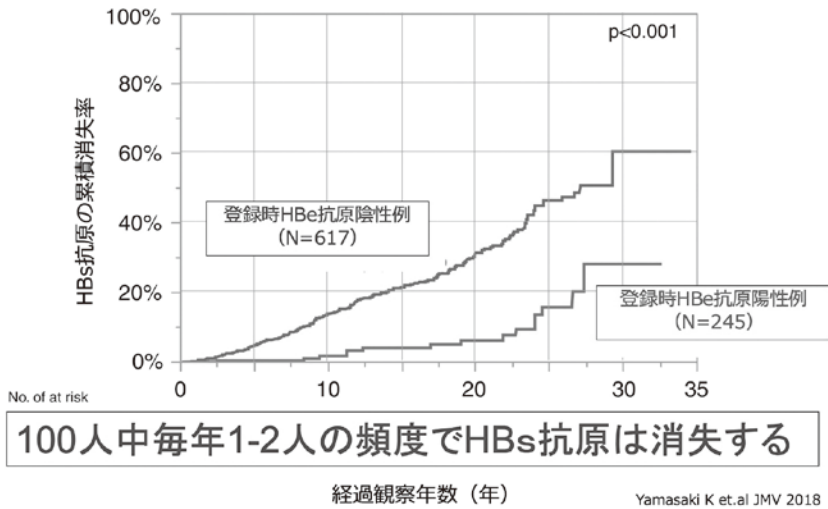


図3

### HBs抗原消失例でのHBsAg量(中央値)の推移 (n=50)

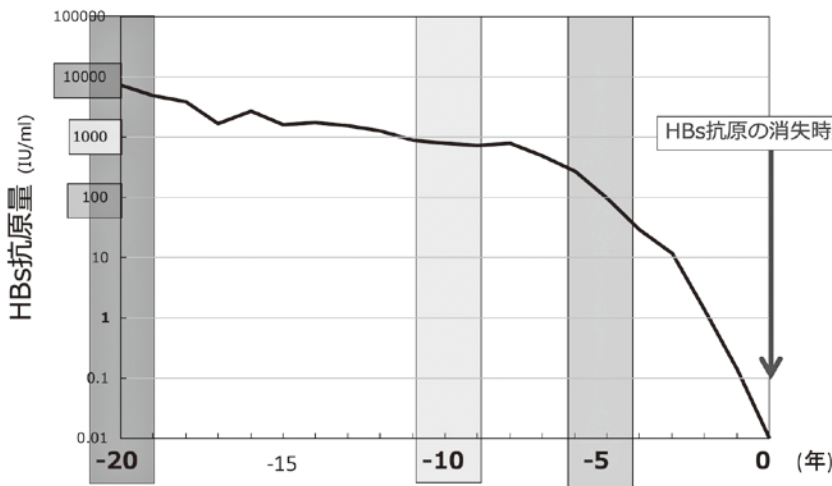


図4

(公財)宮川庚子記念研究財団 主催



参加無料 定員15名(要予約)

## 肝疾患患者さんご家族のための 小規模な相談会を含めた講演会

「ウイルス制御下の肝臓がんについて」

2023年 **10月15日(日)** 14:00~16:00

講師：四柳 宏 先生 (東京大学医科学研究所 先端医療研究センター感染症分野 教授)

会場：公益財団法人 宮川庚子記念研究財団

〒107-0062 東京都港区南青山 2-19-8 Tel 03-5414-8581

申込方法：財団ホームページ(<https://mmrf.jp>)で9月初旬案内

## B型肝炎 オンライン交流会のお知らせ

久々の対面での交流会になります

気軽にお話ししましょう♪

2023年 **10月14日(土)** 14時00分~16時

**対象** B型肝炎の患者・ご家族の方ぜひご参加ください。

**場所** 東京都健康プラザハイジア4F 会議室

**住所** 東京都新宿区歌舞伎町2-44-1

**申込方法** メールにてお申し込みください。

**申込切** 2023年10月7日(土)



①お名前 ②電話番号 ③10/14 オンライン交流会参加希望

①②③を明記の上、[seikyuu@tokankai.com](mailto:seikyuu@tokankai.com) までご連絡ください。

折返し、ご案内のメールをお送りします。

本会報掲載の記事を転載する場合はご連絡ください。